

# 小さな「できた」の積み重ねで 自分を信じる力を育てたい

今回は広島県から宮城県へ赴任中の森敦子先生が登場。被災地にあっても持ち前のポジティブ思考で大活躍。ち密な分析を伴う授業が評判です。

広島県教育委員会が全国の数県と連携して行っている「広域人事交流」。この制度により、森先生は2011年度から2年間の予定で宮城県気仙沼市に赴任中だ。

辞令が出たのが2011年3月。準備を進めていた矢先に東日本大震災が起こった。「初めて気仙沼を訪れたときはがれきと魚の異臭に圧倒され、言葉もありませんでした。でも前しか見ない性格のせいか躊躇や恐れはなく、早く授業を始めたいという焦りのほうが強かったですね」。

## ち密な分析をもとに 効率的につまずきを解消

森先生は英語科の教科教育者として、「よい授業」を追求してきた。「私と過ごす時間に興味をもってもらいたい、という気持ち強いんです。だから生徒が何を求めているか、常にセンサーを働かせています。気仙沼高校のような進学校の場合、生徒の目標とする学力と今の実力を正確に把握し、そのギャップを埋める授業が基本。模試や定期試験の結果は徹底的に分析

し、こまめに戦略を練ります」。

例えば代名詞を無視して意味を取り違える傾向があれば、代名詞が何を指しているのか繰り返し質問し、つまずきを解消するのだという。「授業中、ストップウォッチは必需品。『はい、今から5分でこの英文を訳して!』など、時間を短く区切って何度か課題を出します。テンポよくプレッシャーをかけて集中力を高めるんです。できなかったことが確実にできるようになる授業を目指しています」。

## 苦しくても逃げない経験が 成長につながると信じて

昨年度末に行った授業評価のアンケートでは「苦しかったけど、できる問題が増えうれしかった」などの答えが多く、伝えたことが伝わった充実感を味わった。

「キャリア教育にもつながるのですが、授業では『できた』、『わかった』という経験をたくさん積み重ねてほしい。それが自分を信じる力になり、困難を乗り越える力になると信じています」。

## fan message

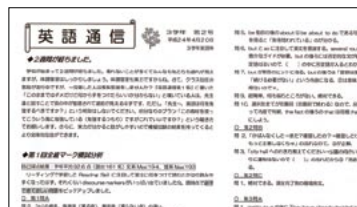


彼女の決して後に引かない行動力は特筆に値します。きっと探究心や理想を描く力が強いんでしょう。的を射た授業はわが校に新風を吹き込んだといえるほど。若手教員にも刺激になっています。2年といわず何年でもいてほしいですね。(宮城県気仙沼高校・佐藤忠司先生より)



宮城県気仙沼高校  
森 敦子先生 (32歳)

専門的に深く1つの教科を教えたいと考え、高校教諭の道へ。広島大学教育学部卒業後、広島県内の2校を経験。「子どもの顔と大人の顔を併せ持つ高校生と、一对一のつきあいを楽しめるのも魅力」という。趣味は登山。



現在3学年の担任として、4クラスの英語を担当する森先生は、月1回のペースで「英語通信」を発行。英語学習に関する悩みや答えたり、模試の問題分析をしている。「問題分析は、『こままでしてくれるのか』と、生徒に信頼されるきっかけにもなります」。